品性教育こそリーダーに課せられる役割

教育（education）の語源を探ると、eduは「外へ」を意味し、cationは「carry」と同じく「運び出す」の意味があります。educationとは「外へ運び出す」、つまり「人間の能力を引き出す、導き出す」という意味になります。品性教育とは自分の道徳心で相手の潜在的な道徳心や諸能力を引き出すことであり、これこそ企業におけるリーダーの本業と言えるでしょう。企業の目的は顧客をつくり出すことであっても、第一義はそれを担う人づくりにあります。人が事業を育て、事業に人が育てられる。自分の会社のためにだけ社員を育てて使おうとするのではなく、どこへ行っても一人前として通用する立派な道徳心のある人間を育て、それを社会に送り出すのも、経営者やリーダーの役割です。

事業の本は人にあり、人の本は道徳にあります。教育の原点は真理・善行・美徳を兼ね備えた人格形成であり、教育の目的は知識偏重ではなく、知徳一体・情理円満の人づくりにあります。リーダーは自他ともに成長すべく、真摯な姿勢で道徳性の啓発や教育に当たることが大切です。

column

3H's→4H's

スイスの教育者、ペスタロッチ（1746～1827）は、頭（Head）、心（Heart）、手（Hand）という三つの能力を調和的に発展させる3H'sの教育を提唱しました。これに対して、下程（したほど）勇吉（ゆうきち）・京都大学名誉教授（1904～1998）は肚（はら）（Hara）を加え、4H'sの教育を提唱しています。肚の据わった人には、たとえ困難なことに出会おうとも志を貫いていける力が備わっています。

私たちは、周囲の人との交流を通して自己の考え方や生き方を学び、自己を確立していきます。すなわち、周囲の人々と心を結んで生きることによって、自己の肚ができ上がっていくのです。反面、困難に直面して肚を据えることができなければ、周囲の人々に心を開くこともできません。このように心と肚は、ともに人と「つながる力」を支えるものであり、品性そのものと言えるのです。